

O023-02

会場：303

時間：5月23日 12:25-12:45

茨城県北ジオパーク構想－東北地方太平洋沖地震災害からの復興をめざして－

草間 吉夫

茨城県高萩市市長

那珂川以北を対象地域として、茨城県北部の10の市町村（そのうち3市町村及び茨城県はオブザーバ参加）と茨城大学及び（財）グリーンふるさと振興機構が参画し、平成22年2月24日茨城県北ジオパーク推進協議会を立ち上げた。ジオパーク活動を展開してきた。メガロポリス東京から約150kmにあり、常磐高速道の利用、JR常磐線の特急利用のどちらでも約1時間30分でアプローチできる。大都市の直近にありながら、豊かな自然に恵まれている。

ジオ的には日本最古の5億年の地層から第四紀層まで幅広く分布し、日本列島の誕生から現在にいたるまでの歴史を、実際に体験できることが大きな特徴である。阿武隈山地は5億年の岩石が露出しているという点で特徴的であるが、対の変成帯が最初に発見されたという点で世界的に有名である。地域の最西部の八溝山地には、ジュラ紀のプレートの沈み込みに伴って形成された付加体を観察できる。阿武隈山地と八溝山地の間の久慈山地には、新第三系が広く分布しているが、これは日本海拡大に伴って活動した大規模な棚倉断層の運動に伴って形成されたものである。地域の南部には段丘がみごとに発達しており、ジオと農業など人間活動との関連が理解できる。一方、文化との関係では、明治39年、岡倉天心が日本美術院を再編成し横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山とともに美術活動を展開した地である五浦海岸では、過去のガスハイドレートの化石とも言える炭酸塩ノジュールが発見されている。ジオと文化との接点を見ることができる。

本地域では推進協議会立ち上げ後、一般市民を対象としてインタープリターの養成を行い、36名のジオ案内人を育成し、この1年間で10回を超えるジオツアーを実施した。本ジオパーク構想の全体的ストーリーのパンフレット、各ジオサイトの案内書はすでに作成済みである。なお、7カ所には和英による案内看板も設置した。ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどソーシャルネットワークも十分に活用している。また、各地の特産品をジオ関連商品として認定し観光客を食への関心も深めさせるためにコーディネーターを中心に検討している。

この3月には、茨城県北地域は東北日本太平洋沖地震により甚大な被害を与えられ、自然の猛威を見せつけられた。我々は、本ジオパーク構想により災害をもたらす自然のしくみも学び、地域復興の一つの手がかりとしたい。